

令和5年度浜松市社会福祉審議会

第1回高齢者福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和5年7月6日（木）午後3時00分から午後4時25分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階 第5委員会室
- 3 出席状況 委員（9名）
石川 恵一（浜松市自治会連合会 理事）
中条 操（浜松市老人クラブ連合会 副会長）
小木野 安孝（浜松市ボランティア連絡協議会 副会長）
山下 文彦（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 常務理事）
坂井 久司（浜松市民生委員児童委員協議会 副会長）
水谷 秀夫（浜松市社会福祉施設協議会 理事）
池谷 千香子（公益社団法人静岡県看護協会 看護師）
酒井 昌子（聖隷クリストファー大学 教授）
露木 里江子（浜松市議会）
- 事務局（14名）
健康福祉部 鈴木部長
高齢者福祉課 亀田課長 鈴木担当課長 大石課長補佐
鈴木G長 内山G長 大場G長 山根G長 中野 宮崎
介護保険課 大村課長 鈴木専門監兼課長補佐
健康医療課 西崎次長兼課長
健康増進課 渥美課長
- 欠席委員（1名）
藤島 百合子（一般社団法人浜松市医師会）
- 4 傍聴者 0名
- 5 議事内容 (1) はままつ友愛の高齢者プランの令和4年度事業実績について
(2) 次期はままつ友愛の高齢者プラン策定に伴う実態調査の結果報告について
- 6 会議録作成者 高齢者福祉課 生きがい・長寿政策グループ 宮崎
- 7 記録の方法 発言者の要点記録 録音の有無 有・無

8 会議記録

- 1 開会
- 2 健康福祉部長挨拶
- 3 新任委員の紹介
事務局から中条操委員、池谷千香子委員、露木里江子委員を紹介
- 4 会長挨拶
- 5 議事

(酒井会長)

議事の公開非公開について、個人情報などの非公開情報を審議する予定はないので公開としたいが、よろしいか。

(異議なし)

(1) はままつ友愛の高齢者プランの令和4年度事業実績について

(酒井会長)

(1)のはままつ友愛の高齢者プランの令和4年度事業実績について、事務局から説明願いたい。

(亀田高齢者福祉課長)

資料に基づき説明

(酒井会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(山下委員)

P2重点施策2の実績値48.9%は、複数回答の総数から算出しているのか。

(亀田高齢者福祉課長)

重複を削除し実人数で算出している。

(酒井会長)

コロナ禍でも家族で話し合ったことがあるというのは成果だと思う。

(亀田高齢者福祉課長)

関係者の皆さんに色々ご尽力いただいた結果だと考えている。

(露木委員)

P5⑥緊急通報システムについて、簡単に利用でき、ご本人やご家族の安心につながるものだが、実績が計画より少ない理由はなにか。

(亀田高齢者福祉課長)

新規申請人数よりも入院・入所・死亡等による廃止人数のほうが多く、結果として利用人数が減となった。

(露木委員)

民生委員でも知らない方が多いのもっと周知してほしい。

(坂井委員)

3、4年前は民生委員あてにチラシが届いたように思うが最近はない。広報に力を入れてほしい。

(亀田高齢者福祉課長)

承知した。対応を検討する。

(酒井会長)

P5①地域包括支援センター運営事業の設置数は22か所のまま変更ないが、②地域包括支援センター総合相談件数は初年度から実績が計画を上回っている点について、どのように考えるか。

(亀田高齢者福祉課長)

地域包括支援センターの増設を検討したこともあるが、既存の設置数は変更せず必要人数を配置することとなった。高齢者人口に基づく職員配置基準は満たしているため、職員配置の考え方については、当面の間このままとしたい。また、現実的には人材不足により施設の増設はなかなか難しいと考えている。

(酒井会長)

相談件数は増えているが対応できているということですね。

(亀田高齢者福祉課長)

はい。コロナの影響や困難事例の増加等に対し、地域包括支援センターの職員には色々のご尽力いただいているものと承知している。

(水谷委員)

P2重点施策5について、実績が計画を下回っているが、周知はどのように行っているのか。

(大村介護保険課長)

無資格の職員が認知症介護基礎研修を受講する際の費用助成を見込んでいたが、見込みよりも無資格の職員が少なかったため、実績が伸びなかった。周知方法については、各事業所あてに一斉メールを送信したほか、市HPや広報はままつにて周知した。

(水谷委員)

ハローワークや福祉人材バンクでの周知は？

(大村介護保険課長)

従前から関わりがあるので事業については知られているが、積極的な周知は行っていない。

(2) 次期はままつ友愛の高齢者プラン策定に伴う実態調査の結果報告について

(酒井会長)

(2)の次期はままつ友愛の高齢者プラン策定に伴う実態調査の結果報告について、事務局から説明願いたい。

(亀田高齢者福祉課長、大村介護保険課長、鈴木担当課長)

資料に基づき説明

(酒井会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(坂井委員)

住宅改修について事例を紹介したい。介護認定を受けていない85歳以上の夫婦のみ世帯で、健康寿命を延ばそうと軽スポーツに取り組んでいる方が、自宅2階寝室への階段の昇り降りが辛くなってきたため、200万円をかけて寝室を1階へ移す改修工事を行った。年金暮らしのため何かしらの助成が受けられないかと相談を受けた。健康寿命を延ばすという観点から、介護認定を受けていなくても助成が受けられるよう加味してほしい。

(亀田高齢者福祉課長)

高齢者の住宅改造費助成事業は、もとは障害者向けの事業を60歳以上の高齢者向けに拡充し実施していた。介護保険制度施行後、20万円までを介護保険事業の住宅改修で行うようになった。住宅という個人資産に対して公金を出すのはいかがなものかという課題もあったが、介護保険制度としては介護度の進行の予防という意味で高額な工事を対象外として制度が実現し、浜松市の独自事業としては従前の事業をベースに合併等を経て要件を少しずつ変更し、現状では、要支援または要介護の認定を受けている非課税世帯に対象者を限定して実施している。単発給付であることから実績は年度により異なり、制度として今後どうすべきかという課題がある。

(坂井委員)

色々な課題があることは承知しているが、健康寿命を延ばして介護保険制度を使わなくてもいい生活ができるのが一番なので、そのための助成についてご検討いただければと思う。

(酒井会長)

P12 認知症に関する相談窓口とはどこを想定しているのか。

(鈴木担当課長)

地域包括支援センターや区役所長寿保険課、認知症カフェ等を想定している。これらの窓口の名称が設問に入っていないため知っているという回答が少なかったと推測する。前回調査と比較すると知っているという回答の割合は増えているが、まだ周知が進んでいないと考えている。

(酒井会長)

私は相談を受けても窓口がわからない。認知症キャンペーン等は実施されているが、窓口についてはまだ周知が進んでいないと感じる。

(中条委員)

ロコトレを知らないという回答が半数以上で疑問に思う。シニアクラブではよく実施され効果を上げている。また、耳の聞こえについて、困っていることはないという回答が多いが、実態は困っている人がかなりいるのではないかと思う。

(亀田高齢者福祉課長)

個人的な推測だが、ロコトレについては、地域の活動に参加されていない方々は意外と知らないのかもしれない。耳の聞こえについては、だんだん聞こえなくなってきたり自覚症状がないことがある。実態と調査結果の相違はこのような理由によるものだと思う。

(鈴木担当課長)

ロコトレ参加者について、事業開始時 H28 の 5,600 人から R4 は 14,000 人まで増加しているものの、周知は引き続き実施していく。

(中条委員)

ロコトレの補助金について、補助率や要件が以前よりも厳しくなった。予算等の理由はあるかと思うが、活動している人は以前のほうが良かったと思っている。

(鈴木担当課長)

事業の継続性を考えなければならず、フレイル予防も大切なことなので、バランスや兼ね合いが重要であると考えている。

(露木委員)

シニアクラブの方からロコトレの集計作業が大変で負担だと聞いた。気軽に参加できるようもう少し工夫できないか。

(鈴木担当課長)

健康寿命の延伸を目的とした事業である一方で、公金を配分するため、ある程度の書類は必要。なるべく負担をかけないように工夫していきたい。

(中条委員)

一般の方へのロコトレの方法や効果の周知をもっと行えば健康寿命の延伸にもつながる。

(酒井会長)

P12 市に充実を求めることにおける、介護保険を利用されていない健康な方が求める日常生活支援とは具体的に何を想定しているのか。ゴミ出しや移動のことか。

(亀田高齢者福祉課長)

設問だけでは具体的なサービスはわからないが、今困っている方がしてほしいことや将来的に困ったときにしてほしいこととして、家事支援等の日常生活支援が必要になるという認識があるのではないかと考える。

(酒井会長)

ゴミ出しや移動等、ちょっとしたことが大変だと感じるので、ボランティアや地域で支えある仕組みがあればもう少しひとりでも頑張れると思う。

インターネットに関する質問は、色々なサービスがインターネットを活用するようになっていくなかで、アクセスできない高齢者への対策づくりにつながるものか。

(亀田高齢者福祉課長)

質問の意図としては、そういうことのほかに、高齢者でもインターネットを使える人が年々増えていくのではないかということに数字にしたいという思いもあった。今後は、インターネットの活用も踏まえてサービスのあり方を検討していきたい。

(酒井会長)

少しかもしれないがインターネットを使えない高齢者への対策も考えた方がいい。

(亀田高齢者福祉課長)

インターネットを使えない方のことを考えながら、使える方についてはインターネットを活用したサービスを進めていけばいいと考えている。

(中条委員)

シニアクラブ浜松市の女性委員会では、スマホ活用の研修会を開催した。

(水谷委員)

デイサービス利用者や入所者でも携帯電話を使っている方が多い。

介護保険制度の満足度とは、具体的にどのようなことに対する満足度を聞いているのか。

(大村介護保険課長)

肌感的なもの、介護保険制度全体の満足度を想定している。

(水谷委員)

今受けているサービスに満足しているから、満足していると回答している方もいると思うがいかがか。

(大村介護保険課長)

そのような回答でも問題ない。

(中条委員)

介護保険制度を知らない人が意外に多い。包括支援のケアマネさんと呼んでの説明会は好評だった。

(坂井委員)

デイサービスは行きたくないが、元気はつらつ教室なら行くという人がいる。介護サービスを受けずに自立して生きていきたい、健康寿命を保ちたいという人を支援すれば介護保険制度の破綻も防げると思う。

(鈴木担当課長)

元気はつらつ教室は、人員配置等において介護保険のデイサービスよりも実施基準が緩和されており、行政としては、訓練や支援としてその方に適正なサービスを受けてもらいたいという思いがある。どのサービスが適正なのかを見極めることが、市や地域包括支援センターの役割である。

(酒井会長)

それぞれの立場からの貴重なご意見をいただいた。

以上で議事を終了する。

6 連絡事項

7 閉会